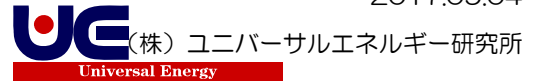


ドイツ、移動式熱媒体を用いて発電時の排熱を利用するプロジェクトを実施

2017.09.04



以下の文章は「Wärme wird mobil」という記事を和訳したものである。

都市から離れた位置にある、遠隔バイオガスプラントの発電時の過剰な熱はどのように利用されるべきだろうか？どのようにして環境保護に貢献できるだろうか？連邦環境省は、ランツベルク(ドイツの都市名)のためのモデルプロジェクトを承認した。そこでは、移動可能な熱供給システムがバイオガスプラント発電時の排熱から構築されている。そこでは遠隔バイオガスプラントの熱は、同システム内のコンテナの助けを借りて状況に応じた分配がされる。このプロジェクトはNKI(：国家気候保護イニシアチブ)によって130万ユーロの資金提供がされている。

ランツベルクとディーセン(ドイツの町名)の周辺には、いくつかのバイオガスプラントがあるが、そこでの排熱は利用されずに廃棄されている。しかしながら、発電施設から利用者への距離が離れすぎているため、暖房システムの構築は経済的ではない。現在解決策として、酢酸ナトリウムで満たされた移動式コンテナの案がある。酢酸ナトリウムを貯蔵媒体として使い、バイオガスプラントの排熱を貯蔵するコンテナである。将来的には、移動式コンテナに蓄えられた熱は、Theresienbad(老人ホーム)とAmmersee-Gymnasium(青少年施設)のために使用される予定だ。これにより、蓄熱材の輸送時に生じるCO₂を考慮しても、この地域の熱供給に使う石油や天然ガスが削減され年間600トンのCO₂を削減できる見込みである。

連邦環境省のバーバラ・ヘンドリックス大臣は語った、「すべての地域で環境保護を促すためには、効率的で目を引くような創造的な既存の熱を使用する方法を取らなければならないことがあります。ランツベルク・アム・レヒヒで実施される移動式コンテナの原則は、おそらく良いモデルとして他の農村地域でも活用されるだろう。」

★参考文献

・「Wärme wird mobil」_<http://www.bmub.bund.de/pressemitteilung/waerme-wird-mobil/>